なぎさ

小松市立安宅小学校　学校だより
NO.２３
令和３年３月８日
校長　広見　理恵

たくさんの「ありがとう」を届けるために　～6年生を送る会～

　異例の行事が続く今年度ですが、コロナ感染防止対策のため、６年生を送る会も例年とやり方を変えて実施しました。今年度の実施ポイントは
①１～５年・先生方の出し物は事前録画し、各教室で録画を一斉に視聴する。
②６年生のお礼の出し物だけ、体育館に全校児童が集まって参観し、短時間で行う。　　　の２点です。

　実際どのような送る会になるのか、不安もありましたが、実施してみて、その不安が吹き飛びました。各学年ともビデオ録画という条件を活かし、趣向を凝らした工夫がされており、何よりも６年生への感謝が隅々にまでいきわたっている出し物ばかりでした。
　５年生が６年生のために会を成功させようと、司会・運営・掲示・プログラム作成など心を込めた準備をしてくれていたことも本当に素晴らしかったです。

　最後に全校児童が体育館へ。全員の拍手と５年生が作成した６年生の顔写真と名前の書かれたうちわに迎えられ、６年生が堂々の入場。５年生の司会で６年生のお礼の出し物が始まりました。
　初めに６年生からお礼の言葉が全校児童に贈られました。準備していた言葉だけではなく、実際の出し物を見た感想をその場で伝えていたところが、さすが６年生と感心しました。また各学年へのお礼に加え、日頃陰で学校を支えて下さっている校務員や支援員などの先生方へのお礼が続き、その心遣いにまたまた感心。そして６年生の歌「絆」の歌唱が始まりました。それはそれは美しい歌声で、中には涙を拭きながら歌っている児童も。それを見ている担任や教員の目にも涙が。心に沁みる、思いのこもった歌声は全校児童の心に届いたことと思います。
　その後、万雷の拍手に見送られ、退場へ。背筋をピンと伸ばし、堂々と退場していく６年生の姿を見ながら、心から「ありがとう」の思いで胸がいっぱいになりました。

　今年のコロナ禍でたくさん我慢や変更を余儀なくされた中で、６年生は最高学年としてあるべき姿を、学校生活の中で下学年に示し続けてくれました。
日々の中で憧れの存在としての姿を見せ続けていくこと、それは大変難しいことです。
たくさんの「ありがとう」を受けるにふさわしい６年生であり続けてくれた彼らを、誇りに思います。

３月の予定

3／１８(木)	卒業式予行練習　卒業式準備（５年） 午後短縮（１～４、６年）
１９(金)	卒業証書授与式
２２(月)	給食終了日　町別子ども会
２３(火)	午後短縮
２４(水)	令和２年度修了式
２９(月)	離任式

<4月当初の予定>

4／５(月)	クラス発表（11時） 新６年入学式準備
６(火)	入学式・新任式
７(水)	始業式 給食開始（２～６年）

「6年生を送る会」第一部（ビデオ放送編）

<プログラム>

① 始めの言葉
② 1年生「たぬきの糸車」
③ 2年生「思い出クイズ」
④ 3年生「安宅小の一日」
⑤ 4年生「6年生ありがとう」
⑥ 5年生「ハッシュタグ アッタカ」
⑦ 先生の出し物「ダンスでハッピー」
⑧ 6年生の入場
⑨ 6年生の出し物
⑩ 校長先生のお話
⑪ 6年生退場

【一年生の出し物】

劇「たぬきの糸車」を動作付きで元気に演じてくれた後、「さんぽ」の歌を手話つきで元気に歌いました。手話の振付がかわいらしくて、見ていた六年生から「かわいい！」の声が挙がっていたそうです。

【二年生の出し物】

六年生の六年間の思い出をクイズにした「思い出クイズ」の発表の後、全員でドラえもんの替え歌を歌いました。歌詞に六年生への感謝を伝えていた工夫が素晴らしかったです。

【三年生の出し物】

六年生の一日を劇にした「安宅小の一日」。ビデオの良さをフルに生かした出し物でした。授業や掃除など六年生から教えてもらったことの感謝を伝える出し物で、最後の人文字もとても効果的でした。